

## 図書情報センターニュースレター

(旧 図書館ニュースレター)

(改訂版) 第8号

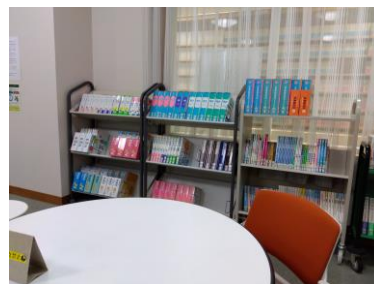
### ■ 図書館ラーニングコモンズに新しいモニター（75型液晶テレビ）が導入されました。



従来からラーニングコモンズに設置している55型テレビに加えて、教育環境整備費により3月に新たに75型テレビモニターが導入されました。これらのモニターは、画面が大きく、授業や自主学習における映像資料の視聴の他、パソコンと接続することで、プレゼンテーションや資料の共有にたいへん便利です。ラーニングコモンズ1に55型、ラーニングコモンズ2に75型を設置していますので、ぜひご活用ください。

### ■ 図書館ラーニングコモンズ1内に国家試験過去問題集コーナーを設置しました。

これまで図書館2階に置いていた看護師・保健師の国家試験過去問題集をまとめて、1階のラーニングコモンズ1の一部にコーナーとして設置しました。館内資料やテキストを傍らに、また、学生同士で情報交換を行いながら、自主学習しやすい環境ですので、学生のみなさんは利用してください。



### ■ 教員著作コーナーのご紹介



図書館に入って右手手前あたりに、本学教員が執筆した書籍やテキスト（翻訳等もあります）を置いています。看護学の各分野はもちろんのこと、社会科学や文学、生命科学など、ふだん意外に知らない教員個々の専門世界を垣間みる事ができます。教職員同士で、また学生のみなさんとの間で、新たな会話やアイデアが生まれるかもしれません。私の本を置いて！という方は是非、図書館カウンターまで。

## ■ 教職員の推薦図書を紹介します。

今年度からスタートした新企画（特設展示コーナーあり）で、どれも図書館に置いている書籍です。前回のニュースレター（昨年10月発行）以降に推薦のあった2冊について、教職員自らのメッセージとともにご紹介します。

### 1) 「底辺駐在員がアメリカで学んだ ギリギリ消費しない生き方」US生活&旅行 (KADOKAWA)

軽い読み物ですが、これからアメリカに留学や、旅行を考えている方にも役に立ちます。また、著者が病気になって社会復帰するまでの過程もここに刺さります。（片倉 直子 先生（在宅看護学分野））

### 2) 「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」 丸山 正樹（文藝春秋）

コーダの手話通訳士の話です。草薙剛さんが最近ドラマで演じていました。手話一つとっても、ろう者によりそう方法や、その人の背景をかんがえて手話をするなど、人を対象とするサービスをする者にとって、とても参考になります。丸山正樹さんは、介護やヤングケアラーなど、看護実践の参考になる作品が多いので、図書館にもっとおいていただいて、読んでみたいと思う作者さんです。（片倉 直子 先生（在宅看護学分野））



\* 当企画は、自身の専門分野に限らず、様々な本を、おすすめポイントを記したメッセージとともに置いて、紹介するものですので、引き続き、いろんな教職員のおすすめ本を募っております。図書館にない本の場合は、（領域図書とは別に）直接図書館にお声がけいただき、購入・展示できればと思います。

## ■ 資料特別展示「認知症の当事者と家族」を引き続き実施中です。

視聴覚コーナーの入口で、特別展示を引き続き実施中です。関連する書籍やDVD、話題の作品などをまとめて展示しています。当コーナーでの新たな特別展企画の提案があれば、ぜひお寄せください。また、新年度には、先日の教育ボランティア交流会で募集しました、本学の教育ボランティアのみなさまからの推薦図書展示を行います。

## ■ 医中誌 Web を実習・レポートで活用するためのビデオ教材（メディカルオンラインの活用促進のための資料）を作成しました。

医中誌 Web は、日本国内の医学関連分野の文献情報を収集したデータベースです。これを用いて必要な情報を集め、研究やレポート作成などに活用する手引きとして、主に学部や大学院の学生を対象に、動画を作成しました。2023年9月6日付の「いちかん掲示板」中にアップロードしています。

★図書情報センターニュースレターは不定期で発行しています。本学 HP の図書館ページに掲載し、学内には「いちかん」等にて配信いたします。図書館内では紙媒体でも若干部数をご用意しますのでご自由にお取り下さい。

## ■ 図書情報センターノート

### 「山と図書室と私」～図書室は未知の世界への扉～



写真は、左から、ヤマケイカラーガイド「世界の山々」「日本の山々」（山と溪谷社）[いずれも久しく前に絶版、筆者は10年ほど前に古本で購入し、約40年ぶりに再会？しました]、多田繁次著「ひょうご低山遍歴 なつかしの山やま」（神戸新聞総合出版センター）。多田氏の紀行・随想は本作（30年前に出版され購入）を含め、5冊ほどあります[いずれも絶版]。

このニュースレターを読まれている方々には、それぞれに図書館との出会いがあり、図書館へのさまざまな想いをお持ちだと思います。一方、教育機関や社会における図書館の普遍的な役割や存在意義はなんだろうかと考えたとき、それは、勉学や調べごとの参考になる、というのはもちろんのことですが、やはり、さまざまな書物や資料をきっかけに、「各人の想像力を拡げて身の回りの世界への扉になる」ことが基本的なところなのではないでしょうか。ここからは、私の場合の図書館との出会いの思い出から始めて、思いつくままに記してみたいと思います。

もう半世紀前になりますが、小学校に入学し、いつしか図書室がお気に入りの場所になった頃、まず夢中になったのは、エラリー・クイーンなどの推理小説シリーズに加え、当時出たばかりだったヤマケイカラーガイド「日本の山々」「世界の山々」でした（写真）。カラーが美しく高価でもあり、基本的に少年少女用の本ではないのでしょから、これを図書館に入れてくださった先生は、英断されたのだと思います（ご自分が欲しかったのかもしれませんが！）。カラーガイドには、想像と夢を誘う日本や世界の名峰・雄峰の写真とともに、登山隊員の臨場感と熱気溢れる文章がセットになっていました。私は繰り返し借りてきて、近くに見える六甲の山々にそれらの世界を投影しては、友だちと近所を小探検などして過ごしました。この体験は、私を探索好き、山好きにし、私の心に自然に対する愛着を織り込みました。このようなことがあり、その後、山岳を題材にした随想（軽妙なものから心に沁みるものまでいろいろありますが、信州・霧ヶ峰に暮らした手塚宗求氏のものが私の一押しです）や、紀行文を偏愛するに至ります。兵庫県、また神戸ゆかりの岳人の紀行文・随想では、環境の変貌を見つめながら、人生の後半を身近な兵庫・神戸の山々に情熱を燃やされた多田繁次氏の本（写真）が印象深いです。しばらく山に行けない時や、天候が悪い時でも、文章を通じて氏の山行に自分を重ねて、探索気分や空気を感じることができます。氏亡き後、神戸木津周辺（キヨスミウツボが群生）の丘陵が消え、丹生山麓の森も最近メガソーラーに変貌するなど、氏の感動の追体験が叶わない場所が多いのは残念ですが。

ずいぶん話が脱線して、図書館の役割考なのか、私の推薦図書紹介なのか、雑多でとりとめない文章になりましたが、本学図書館が前途可能性や夢に満ちた学生達にとって、それぞれの世界を拡げ、未知への扉となる場所であってほしいと願っております。

二木 啓（図書情報センター長・専門基礎科学領域医科学分野教員）